

鶴ヶ島市立南

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学校教育目標・教育方針	教職員	①私は、学校教育目標や教育方針を理解し、達成できるよう努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	評価結果について の分析・課題 学校教育目標の達成に努めていると答えた教職員は6割を超え「だいたいそう思う」を含めると100%となっている。その取り組みは生徒にも伝わり、9割を超える生徒が肯定的評価となり、5割を越す生徒が達成に努めていると答えた。しかし、保護者の回答は、4分の3が肯定評価となり学校教育目標を知っていることになるものの「そう思う」の回答は極端に少なく、地域の結果よりも大きく下回った結果となった。
	生徒	①私は、学級目標や個人目標を達成するために努力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	課題解決への方策 教職員の意識を改善し「そう思う」を100%となるような取り組みを行う。そのために、何を持って「取り組んでいるのか」を明確にした教育方針の共通理解に努め、目標達成への生徒の意識を更に高めていく。保護者にとって、子供からの影響が最も効果的であると考え。また、今後も機会をみて保護者に教育目標の周知を続けていく。
	保護者	①私は、学校教育目標や教育方針を知っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	学校関係者評価委員会による評価 保護者、地域の質問項目の聞き方は二択ですむのではないかと。保護者の回答が他と比べ厳しいのは、一般的に、アンケートは良く思っていない人が回答することが多いからではないか。この質問項目については、学校からの発信が少ないと思われる。毎年、年度当初に知らせ「目標はこうです」という提示だけでなく説明、教師の思い、生徒の思い等の配信があると良い。手紙は親まで渡らないこともある。配信システムやホームページをもっと活用する方が良い。配信の時間も16時にする等、余裕のある時間であれば、確認しやすく、アンケート等も忘れず返信できるのではないだろうか。
	地域	①私は、学校教育目標や教育方針を理解している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	

鶴ヶ島市立南

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学級経営	教職員	②私は、生徒のよさや可能性を発揮できる学級経営を行っている。	① 48% ② 43% ③ 9%	評価結果についての分析・課題 「そう思う」が生徒74%に対し、保護者は32%と大きな開きがある。否定的評価も3%と13%と差が大きい。これは、生徒は学級経営と違った視点で学校生活を捉えているからだと考えられる。教職員の「そう思う」が5割を切っていること、否定的評価が9%に上っていることが課題であると考ええる。
	生徒	②私は、学級での生活が楽しいと感じている。	① 74% ② 23% ③ 2% ④ 1%	課題解決への方策 教職員の評価からも、現在の学級経営の難しさが垣間見られる。今後も研修は続けていかなければならない。学校公開日でなくても、学校にいつ来ても良いことを周知すること、Q&Aアンケートや学校教育相談アンケートを利用した二者面談や三者面談を実施していることを保護者に知ってもらうことは重要である。その上で、改善するための話し合いを設ける手立てもある。
	保護者	②学校は、生徒のよさや可能性を発揮できる学級づくりをしている。	① 32% ② 55% ③ 12% ④ 1%	学校関係者評価委員会による評価 保護者と生徒の評価に差があるのは、保護者は「思わない」というより知らないのではないかと。子供があまり学校の話をしていないので、保護者は知らないで低くつけがちとなる。学校から欠席やトラブル発生時に、心配や指導したことの連絡をもらえることは有難い。学級通信が一番学級の様子が伝わるので、個人情報や担任の負担等が問題かもしれないが定期的に出してもらいたい。家庭でも毎日、何でも子供に聞いてみる必要がある。個人情報の壁により、地域の中でのつながりや地域が学校に向ける関心が薄くなってきている。民生委員も苦勞している。学校公開のアンケートはフォームで用意されたら回答しやすいと思われる。
	地域	②学校は、生徒のよさや可能性を発揮できる学級経営を行っている。	① 67% ② 33%	

鶴ヶ島市立南

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
学習指導①	教職員	③私は、生徒が意見を主体的に発表したり、他者の意見を聞いたりして学びを深める授業を実践している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果について の分析・課題	全体的に、概ね高い評価である。教職員の「そう思う」の評価よりも生徒、地域の評価が高い値を示していることは授業の実践に効果があると判断できる。しかし、比較して保護者の評価が低いこと、生徒に否定的評価が12%あることは課題である。
	生徒	③私は、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれながら勉強している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決 への方策	本校では、今年度も「学び合い学習」についての研修の機会が豊富であり、授業改善に繋げている教員は多い。今後、更に研修を進め、授業による教職員の指導力を高めていく。また個々の生徒に対する対応がきめ細かく行えるような体制を充実させ、個々の生徒の実態を把握して、生徒を見取り、支援を行っていく。
	保護者	③学校は、生徒が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	地域、保護者、児童生徒の回答の差は、見ている視点が限られているため違いがでてくるのではない。生徒は、自分の視点のみ、保護者は自分の子供を通してのみ、地域は、学校運営協議会で授業参観のときのみの限られていた場面である。「生徒が意見を主体的に発表したり、他者の意見を聞いたりして学びを深める」ためには、家庭学習も含め、学校と保護者との協力が不可欠である。また、授業においては発表の機会を意図的に作ることも大切なのではない。総合的な学習の時間を活用して計画的に実施していただきたい。発表形式の工夫(話す、絵、PC、パワポ)により、生徒の学びを深める授業を実践できるのではない。
	地域	③学校は、生徒が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

鶴ヶ島市立南

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学 習 指 導 ②	教職員	④私は、学習目標達成のために学習用端末や大型モニタ等のICT機器を活用して、わかりやすく工夫した授業を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果についての分析・課題 他の項目と比較すると「そう思う」の割合が、生徒、保護者、地域で最も高い値となった。しかしながら、学習用端末やICT機器を活用しただけで肯定的な評価にしている可能性が高い。今後の課題は、子供たちに、考えを深め広げたりする授業改善を推進していかなければならない。
	生徒	④私は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりして、積極的に授業に参加している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策 「学び合い学習」の授業改善として、課題設定とその課題に対し生徒たちがどう学んでいるかが重要である。生徒たちがどうしたら「考えを深めたり広げたりできるのか」を考えるための研修を充実させていく。また、教員同士で授業を参観し合い教科間で意見を交換する機会を設定していく必要がある。
	保護者	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価 教職員の評価は肯定的評価が100%であり、「大体そう思う」という評価が45%になっていることも、さらに改善しようとする表れであると評価できる。今後も、授業でのICTの活用を推進してもらいたい。学習端末を使って、生徒への提示の工夫をするだけでも「考えを深めたり、」広げたりすること」につながると考える。学習端末の利用により、家庭でのICTの活用をもっと進めていく必要がある。同時に、生徒の情報リテラシーの教育を進めていかなければならない。
	地域	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

鶴ヶ島市立南

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
体力	教職員	⑤私(学校)は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。	① 81% ② 19%	評価結果について の分析・課題 対象者全てで、8割以上が肯定評価を付けている。生徒の評価では否定的評価が比較的に多く「そう思わない」は6%となった。生徒、保護者の文言に「部活動」が入ると、文化部、無所属、外部に所属している生徒の回答で「そう思う」がつけづらいと推察できる。運動に関しては、得手、不得手があるため否定的評価がなくなることは難しいが、そう思うの値に開きがあることが課題である。
	生徒	⑤私は、体育や休み時間・部活動等で、校庭や体育館などでいろいろな運動をして、体力をつけようと努力している。	① 57% ② 30% ③ 7% ④ 6%	課題解決 への方策 部活動に焦点を置かず、休み時間や、体育の授業、体育祭、などで体力向上の意識を持たせる。目的を持って体育の授業や体育行事に取り組みせたい。また、体育委員が主体となって昼休み体育館開放や生徒会本部主催のレクリエーション等の取り組みを推奨し体力増進への意欲向上を図る。
	保護者	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。	① 39% ② 55% ③ 5% ④ 1%	学校関係者 評価委員会 による評価 授業と休み時間、部活動の捉え方がちがうはずであり、教職員、生徒、保護者(=地域)の回答の視点は変わってくる。 体力面を考えると中学校の体育祭は秋の方が良いのではないだろうか。授業や体育祭では、怪我をしやすい時期や種目で予防方法を指導してもらいたい。怪我をしない体を作ることは大切なことである。教職員や家庭、地域の負担を減らせるような取り組みをしてもらいたい。例えば、ストレッチを教えて、家でやってもらう等。 部活度等、時間がなかなか取れないところを、外部に任せることは大切であり、進めてもらいたい。
	地域	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。	① 60% ② 27% ③ 13%	

鶴ヶ島市立南

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導①	教職員	⑥私は、生徒の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果についての分析・課題 教員の回答はすべて肯定的だが、生徒、保護者、地域には否定的な意見がある。特に生徒、保護者の「そう思わない」が、7%、9%と、他の項目と比べ大きな値となっていることが課題である。いじめやトラブルに関して組織的な対応は徹底しているが、家庭と連携・協力が不十分だと感じている家庭があると推察される。
	生徒	⑥私は、いじめやトラブルなどの問題に対して、先生や保護者に相談し、一緒に解決しようとしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策 保護者に学校の取り組みを理解してもらうことは重要である。QUアンケートや学校教育相談アンケートを利用した二者面談や三者面談を実施していること、学校公開日でなくても、学校にいつ来ても良いことを保護者に周知する。また、いじめ等に関する保護者へのアンケートを学期に1回のペースで行う方法も検討したい。家庭と連携・協力した対応を更に徹底して取り組んでいく。
	保護者	⑥学校は、いじめやトラブルなどの問題に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価 教職員の努力とは無関係に不登校は増えている状況の中、不登校やいじめトラブルの当事者となった保護者に否定的な評価があるのは仕方ないことだと思う。学年別で評価結果は変わってくるのではないだろうか。今まで通り、丁寧な対応をお願いしたい。 「担任とコミュニケーションがうまく取れないときに誰に相談したらいいかわからない」という保護者もいる。相談の窓口を広くしてもらえると相談しやすい。さわやか相談室へ直接電話もできるので「相談室だより」などに相談の窓口を書いておもらえると良い。 地域としては、長期休業日などに実施しているパトリールの継続をしていく必要があると思われる。
	地域	⑥学校は、生徒の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

鶴ヶ島市立南

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導②	教職員	⑦私は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果についての分析・課題 「そう思う」が生徒73%に対し、保護者は30%と大きな開きがある。否定的評価も4%と25%と差が大きい。このアンケートでの生徒の理解は教職員、保護者のものと違った解釈となつてると考えられる。教職員と保護者の肯定評価「そう思う」の差は大きな課題であり、教職員の取り組みが保護者には伝わっていないことになる。
	生徒	⑦私は、自分のよさや可能性を伸ばしたり、友達との関わりを大切にしながら、自分の目標に向かって行動したりしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策 「自分の良さや可能性を伸ばしたり、友人との関わりを大切にしながら、自分の目標に向かって行動したりしている」という問いに対して、生徒に分析させる。そして、生徒理解のためのガイドライン等の研修会を実施し、教職員の共通行動が明確になれば保護者への理解に繋がると考える。また、学校公開日でなくても、学校にいつ来ても良いことを周知し、保護者が気軽に相談できる機会を設ける。相談室等で、悩みの相談できるコールセンターがもっと活用されるようになって良い。
	保護者	⑦学校は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価 地域(学校運営協議会)の評価が家庭より高いのは説明を受けているため。保護者には、学校から生徒の良さを伸ばす具体的な取組が提示されると良い。生徒会役員の提案による全校レクや、学び合い教育などの取り組みを進めていく。保護者は、子供と取組について話し合い、学校の運営方針等を家庭で確認していくことが必要である。学校では、勉強だけでなく、色々な体験をさせることが大事である。社会体験チャレンジ等で実際の社会の仕組みを知ることが重要となる。学校、家庭、地域で、小中一貫等をシームレスな取り組みにしていけることが大切になる。地域の行事など年代を超えて一緒に取り組んでいけると良い。
	地域	⑦学校は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

鶴ヶ島市立南

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
特別支援教育	教職員	⑧私は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果についての分析・課題 地域の方からの評価は高く「そう思う」は64%であり、否定的評価は0%である。しかし、教員、生徒、保護者の評価は、他の項目と比較すると非常に低く、特に、保護者からの否定的な意見は最も多かった。教員からも否定的評価が5%出ている。本校の課題に保護者からの理解が十分では無いことが浮き彫りとなっている。また内面的にも家庭との連携・協力で課題を感じている教員がいることが分かる。
	生徒	⑧私は、苦手なことなどを、先生や保護者に相談し、一緒に解決しようとしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策 否定的な評価をした保護者は指導のどこに引っかかりをかんじているのかを把握する必要がある。家庭から「不公平感を感じている」という意見があったこと、生徒にも「意見を聞いてほしい」という訴えがあったことをしっかり理解をし検討していく。生徒一人一人の理解に努め、個に応じた指導をきめ細かく実践していく。
	保護者	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価 保護者の否定的な回答が多いのが気になる。低学年のうちから、家庭で話し合う習慣が必要である。親から話を聞いてあげるのも大切である。何でも言える先生が学校にいるといい。共働きや母子家庭が多くなっている中、夏休みの鶴っ子サマースクールの活用が広がればいいと思う。長期休業中には、塾の利用者が多い一方、行っていない子が不規則な生活になるのを避けたい。自習をする場を確保するため、空き教室や市民センターなどの場を活用できるように検討してもらいたい。しかし、場があっても、活用する子供が少ないことが課題となっている。子供の意識をどう変えるかが難しい。提供された場を活用してくれるような取り組みが必要である。サマースクール等をより充実させて、子どもたちに意識化・習慣化させられると良い。
	地域	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

鶴ヶ島市立南

中学校

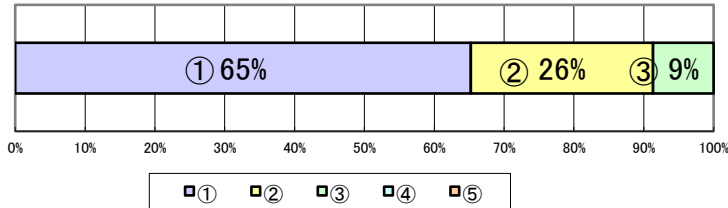
評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
地域とともにある学校	教職員	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	① 33% ② 62% ③ 5% □① □② □③ □④ □⑤	評価結果についての分析・課題 学校評価全般に関わることはあるが、保護者(76人)の回答率が少ない。地域との関わりに関する項目であるため、特に課題となる。このことは、PTAの行事以外で、保護者との地域行事の結びつきがあまりないことにも繋がると推測できる。また、教職員の「そう思う」が、33%と他の項目と比べても低い値であり、否定的評価も5%出ている。このことは大きな課題である。
	生徒			課題解決への方策 教職員に、学校運営協議会、学校応援団の意義と重要性を理解させることが先決である。保護者と地域の協力については、生徒が参画する地域ボランティア活動に、保護者も参加したり、見にいったりしやすいように地域の方と協議していきたい。学校評価全体に関わることはあるが、保護者の回答率を上げるために、保護者会、説明会でアンケートに回答してもらうことや紙ベースでのアンケートに戻すことを検討していく。
	保護者	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに協力している。	① 20% ② 57% ③ 18% ④ 5% □① □② □③ □④ □⑤	学校関係者評価委員会による評価 南中学校区は、地域との関係がうまくいっている地域である。地域の協力が多く、大勢の人が地域の行事に参画でき、南中の生徒は恵まれている。学校応援団や健全育成会の協力が充実している反面、やってもらって当然という意識が保護者の否定的な意見がにつながっているのではないかと。親を巻き込んだ活動を進めていかなくてはならない。昔は保護者と子供と一緒にやった活動が多かった。若い保護者の方が増えてきている今、PTA活動を活発にし、地域と保護者を巻き込んだ「一緒にやる活動、やって楽しい、やってよかったねという活動」を増やしていくことが必要である。あくまでも地域は支える側である。人任せにせず保護者のやるべきことを子供を中心に据えて考えてもらいたい。
	地域	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	① 53% ② 40% ③ 7% □① □② □③ □④ □⑤	

鶴ヶ島市立南

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
働き方改革	教職員	⑩私は、働き方改革の目的を理解し、業務改善を進め、心身ともに健康であるよう努めながら、教科指導や教育相談に係る時間を増やし、教育の維持・向上に努めている。	 ① 65% ② 26% ③ 9% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果についての分析・課題 今年度、業務改善に対してはかなり新たな取り組みを取り入れている。しかしながら9%もの否定的評価が出てしまっていることは残念な結果である。働き方改革に関しては、努めてはいるが、現状は勤務時間外に生徒がいるため、対応をしないといけないということなのだろうか。
	生徒			課題解決への方策 働き方改革は、教職員の業務を楽にすることを主な目的にしておらず、生徒と向き合う時間を確保することが目的であると今一度理解してもらい、教育の維持・向上に努めてもらいたい。今年度行った「カエル会議」での意見がかなり業務改善に反映されている。生徒の登下校を教員の勤務時間改善に合わせる取り組みも進めてきた。今後も検討を重ね更に業務改善を進めていく。
	保護者			学校関係者評価委員会による評価 先生たちが一生懸命やっていても保護者の意にそぐわなければその活動は進まない。保護者、地域と協力して進めていかななくてはならない。鶴ヶ島市は、施設(箱もの)はないが、マンパワーの導入では他の地域よりも、かなり学校における働き方改革を進めてくれている。大変有難い。しかし、民間の力をもっと必要としている。プールの民間委託等、市で推進する事業をもっと大胆に迅速に進めてもらいたい。教職員に関しては、本来の業務の意義を理解して「子供と接する時間を確保するため」の取り組みを進めてもらいたい。若い教職員等が業務を楽にすることだけに囚われ勘違いしないように。保護者、地域に関しては「地域とともにある学校」と同じである。
	地域			